

# challenge camp 2018 jump into the summer 8/1(水)~8/6(月) 晴れわたれ! 山形の夏、はね回れ!

今年度も、5泊6日の『チャレンジキャンプ2018』が開催され、元気いっぱいの小中学生30名が参加しました。大自然の中で仲間と協力し挑戦し続けた6日間、子どもたちはたくましく成長しました。最終日「別れのつどい」で涙ながらにキャンプソングを熱唱する姿も、体験したものだけが味わえる感動の一場面でした。

1日目に作った手作りいかだに乗って、8月5日(日)に月山湖にこぎ出しました。強風にも負けず、班のメンバーで力を合わせ、湖面から噴水を見たり、周りの景色を楽しんだりしてきました。



## いかだ体験

8月2日~4日までは、月山の志津野営場でキャンプをしました。町の明かりの全くない満天の星空に大満足の子もたち、キャンプファイヤーでは、大学生と高校生のサポーターが考えてくれたゲームを楽しんだことも、忘れられない思い出となりました。



## 志津キャンプ

## 月山登山



8月3日(金)の月山登山当日、山頂付近はガスがかかって肌寒い天候でしたが、全員が自力で頂上まで辿り着き、無事下山することができました。

サポーターの方々の支えや仲間同士の励ましの声、そして寒さや足の痛みにも打ち勝って1984mの山頂に立つことのできたことは、子どもたちの大きな達成感、そして自信につながりました。

## 朝日わくわく広場④

# カヌー体験in月山湖

7月16日(月)海の日、西川町の寒河江ダム(月山湖)にて「カヌー体験」を行いました。カヌーガイドの細谷信太郎さんを講師にお迎えし、初めてカヌーに乗る参加者にも丁寧に教えていただきました。いざ湖面に出ると、コツをつかんでどんどん進んでいく子がほとんどでした。カヌーをこぎながら周りの木々の様子を眺めたり、鳥の鳴き声を聞いたり、日常生活ではなかなか味わうことのできない大自然の素晴らしさも満喫しました。雪解け水の流れ込みでの水遊びや、棧橋からのダイビングも体験し、大満足できたようです。この様子は、TVニュースにも取り上げられ放映されました。

# 朝日の山並み

発行

山形県朝日少年自然の家

電話

0237(62)4125

Fax (62)4126

ホームページ

山形県朝日少年自然の家

で一発検索



## 「自然の家では、みんなが“正解”」

山形県朝日少年自然の家 所長 後藤秀之

朝日少年自然の家にはいろいろな状況の学校がやってきます。

「普段落ち着かない子ども達なのでここで自信をつけさせたい」「普段素直すぎる子ども達から雨中のテント泊のように苦しい体験をさせ乗り越えさせたい」等々、先生方からお聞きする話は様々です。

「出合いのつどい」の場面では、先生の手を一切借りずに自分たちで進行する学校もあれば、先生に指示をもらわなければ思うように児童が動けない学校もあります。「テントの準備」の場面では、様々な用具運搬の仕事分担を自分達で決めている学校もあれば、先生が機械的に“一列目がテント”“二列目が寝袋”と割り振る学校もあります。所員の説明が始まると、真剣な眼差しでうなずきながら聞く子ども達もいれば、集中力が途切れてしまう子ども達もいます。「テント設営」が始まると、子ども達に自力でつくらせたいと先生方が極力手を貸さない学校もあれば、先生方が手取り足取りかかわる必要がある学校もあります。時には、ケンカが始まり泣き出してしまふ子が出るなど、ひと騒動が起きることも稀ではありません。

様々な場面を目にしますが、自然の家では「どの学校が正しい、間違っている」という捉え方は全くありません。なぜなら、参加する学校には、自然の中の生活を通して「子ども達に付きたい力は何か」「子ども達のどのような成長の姿をイメージしているか」という“ねらい”がそれぞれあるからです。

朝日少年自然の家の職員間で確認していることは、「あまり先を急がない」「必要以上に手を出さない」「子ども達の力を最大限引き出す」「学校の主体性を考えながら進める」という事です。これからも、子ども達が“自信に満ちた笑顔”で自然の家を後にすることができるように、「学校のねらい」に極力寄り添いながら支援を続けていきたいと考えています。

## 今後のイベントのご案内

### 朝日わくわく広場⑦「朝少フェスタ2018」

☆9月29日(土)~30日(日)1泊2日

朝少の秋祭りです。参加者がいろいろな屋台(チョコバナナ・射的など)の準備や運営を通して、地域の方々と交流します。自然の家に一泊するの大きな楽しみのひとつです。

対象…小学4年生~中学生 40名

